

プラント輸出データ便覧

2024年版



重化学工業通信社

目次

第1章 海外プロジェクト受注動向…………… 1

1. 注目される2024年のプロジェクト／1
2. 日本企業の2023年プロジェクト受注動向／29
3. 海外企業の2023年プロジェクト受注動向／45
4. 日本企業の2022年度海外プロジェクト受注動向／67
5. 最近の日本企業受注・応札状況／90

I H I／90

伊藤忠商事／91

川崎重工業／91

神戸製鋼所／91

J F Eエンジニアリング／92

住友商事／92

双日／93

千代田化工建設／93

東芝／94

東洋エンジニアリング／94

豊田通商／95

日揮ホールディングス／96

日鉄エンジニアリング／97

日立製作所／98

日立造船／99

富士電機／100

プライメタルズテクノロジーズ／100

丸紅／101

三井海洋開発／103

三井物産／103

三菱重工業／104

三菱商事／106

三菱電機／107

第2章 主要企業の決算概況…………… 108

1. 総合商社の2022年度決算／108

伊藤忠商事／108

住友商事／109

双日／109

豊田通商／110

丸紅／111

三井物産／111

三菱商事／112

2. 総合重機の2022年度決算／114

総合重機5社／114

I H I／115

川崎重工業／115

住友重機械工業／116

日立造船／117

三菱重工業／118

3. エンジニアリング専業の2022年度決算／124

エンジニアリング専業3社／124

千代田化工建設／124

東洋エンジニアリング／125

日揮ホールディングス／126

4. 重電の2022年度決算／128

重電4社／128

東芝／129

日立製作所／130

富士電機／130

三菱電機／131

5. 鉄鋼系の2022年度決算／135

鉄鋼系3社／135

神戸製鋼所／135

JFEエンジニアリング／136

日鉄エンジニアリング／138

第3章 分野別海外プロジェクトの概況…………… 141

1. エネルギー・化学分野／141

2. 電力分野／162

3. 鉄道分野／185

4. 空港分野／199

5. 港湾分野／201

6. 道路・橋梁分野／204

7. 製鉄・非鉄分野／211

8. 水処理分野／223

9. ごみ発電分野／234

10. 通信分野／240

11. 都市開発分野／243

12. その他分野／247

第4章 海外プラント・建設成約実績…………… 248

1. 2022年度の海外プラント・エンジニアリング成約実績～日機輸／248

2. 2022年度のエンジニアリング産業と動向～エンジニアリング協会／254

3. 2022年度の海外建設工事受注実績～海外建設協会／257

4. 2022年度の重電機器受注実績～日本電機工業会／260

5. 2022年度の円借款プロジェクト受注状況～JICA／261

<注>合併(吸収合併含む)・社名変更などを行った企業の変更以前の案件については、旧社名のままのものもある。

第1章 海外プロジェクト受注動向

1. 注目される2024年のプロジェクト(2023年末現在の情報に基づき作成)

【エネルギー・化学】

引き続き底堅い、ガス関連プロジェクト

ー燃料アンモニアプロジェクトの動きにも注目ー

2023年のエネルギー・化学プロジェクトは、年初には、「LNGプロジェクトが活発に動く」と思われた。

2022年2月にロシアによるウクライナ侵攻があり、ロシアが西側諸国の経済制裁対象となったため、ロシアからパイプラインで天然ガスを輸入していた国は、代替としてLNGの確保が急務になった。そこで、中東や北米のLNGプロジェクトの具体化が期待された。

しかし2023年を振り返っても、FID(最終投資決定)が下されたLNGプロジェクトは、米国のネクストディケイド社がテキサス州で計画するリオグランデLNGプロジェクト(年産540万トン×3系列)、そして千代田化工建設が長年に渡って追いかけてながら、商談中に辞退したカタールエナジーが計画するノースフィールド・サウスLNGプロジェクト(年産800万トン×2系列:コントラクターは仏テクニップエナジーズ~ギリシャ・CCC)の2プロジェクトのみだった。千代田は再建途上で財務状態の改善を優先させたため、リスクの大きいプロジェクトから辞退せざるを得なくなった。

ロシアによるウクライナ侵攻により、エネルギー地政学が変わるのは確実で、その地政学の変化とともにプロジェクトが具体化する期待はあったが、動きは意外にも鈍かった。とはいうものの、エネルギー地政学の大きな変更により、プロジェクトが本格的に動き出すのは、むしろ2024年だ。

■エネルギー地政学の変化でガス関連プロジェクトに動き

2024年、まず注目されるのが、UAEのADNOC LNGが計画するルワイスLNGプラント建設プロジェクト(年産480万トン×2系列)だ。

同プロジェクトはロシアのウクライナ侵攻直後に浮上した。当初、サイトはフジャイラ地区だったが、2023年5月にルワイス地区に変更された。ロシアから天然ガスをパイプラインで輸入できなくなった欧州諸国の代替需要を狙ったプロジェクトで、急ピッチでプロジェクトを進められた。案件が浮上すると、2022年5月にプラントのFEEDを米マクダーモットに発注した。その後、2023年5月31日に技術入札が実施され、仏テクニップエナジーズ~日揮グローバル~現地NPCC、米マクダーモット~伊サイペム~韓・現代建設の2グループが応札した。当初8月30日に価格入札が実施される予定だったが、入札は12月末にまで延期された。

【水処理】

伊藤忠のサウジ海淡と丸紅のバングラ下水で事業契約締結へ

－ジャカルタの下水とカンボジアの上水でE P C入札－

日本企業は膜やポンプといった一部の機器で高いシェアを持ち、低い漏水率や高い料金徴収率といったO&M(運転・保守)のノウハウを誇る一方で、プラントE P C(設計・調達・建設)と長期的なO&Mを垂直統合したビジネス展開では、欧州の水メジャーに遅れを取っており、中国・韓国企業など新興勢力との競合も激しくなっている。また水ビジネスは公共性が高いため、事業運営が商業ベースに乗りやすく、公的な支援の拡充が大きな課題だ。

海水淡水化プラントは、プラントのコスト低下と渇水の多発により、世界各地で需要が高まっている。サウジアラビアでは伊藤忠商事が巨大スマートシティNEOM(ネオム)におけるIWP(独立系造水事業者)の新設・運営プロジェクトを計画しており、現地政府系機関との事業契約締結に向けて交渉中だ。造水能力は50万m³/日の予定。

東南アジアおよび南アジア諸国では、都市化の進展に伴い、上水から下水へと関心が移りつつある。バングラデシュでは丸紅がチョットグラム市第6処理区の下水道整備・運営プロジェクトを計画しており、2024年前半にも事業契約が締結する可能性がある。設備容量は下水処理場が5万～10万m³/日、下水道網が約70km。

インドネシアではジャカルタ下水道整備の第6処理区でプラントE P Cの入札が開始される予定。円借款が供与されており、下水処理施設(4万7,000m³/日)と下水管渠(総延長144km)を整備する。カンボジアでは無償資金協力による上水道プラント整備が堅調だ。スパイリエン上水道拡張とブンプレック上水道改修・拡張で入札が始まっており、クボタ、神鋼環境ソリューションなどによる受注が期待されている。

さらに気候変動により、洪水と渇水が世界各地で激甚化および偏在化しており、下水道のノウハウを活用した治水対策も増加している。フィリピンでは、パラニャーク放水路整備プロジェクトが計画 중이다。8km規模の地下放水路を建設するもので、シールド工法などで日本企業の技術活用が期待されている。

ベトナムでは、ホーチミン市の下水道管路更生プロジェクトでコントラクター選定が開始している。開削せずに下水管を整備する推進工法を採用する計画で、積水化学工業が関心を寄せる。

水処理分野

【ベトナム】

| プロジェクト名 (規模・能力・サイト) | 事業主体 (発注者等) | 総投資額 (建設費) | 備考 |
|--|----------------|---------------------|--|
| ホーチミン市非開削下水道管路更生 (能)既設下水道管路約2.8km (所)ホーチミン市中心部 | ホーチミン市人民委員会 | 無償 18.82億円 限度 | 2023/11入札PQ公示を準備中、公示予定は2024/1。2020/2無償G/A、18.82億円限度。2018/5無償E/N。2017年度に積水化学がホーチミン市で独自開発のSPR(管路更生)工法を実証。詳細設計・施工監理等を日水コン〜クリアウォーターOSAKA(大阪市100%出資)が担当 |

3. 海外企業の2023年プロジェクト受注動向<2023年1~12月>

※掲載情報は受注当時の情報を掲載

【エネルギー・化学】

| 国名 (サイト) | 事業主体 (発注者等) | プロジェクト名 (規模・内容) | 役務範囲 | 金額 決済財源 | 受注企業 |
|----------------------------|--|---|---|---------------------------------|--|
| 中国 (陝西省西安) | 中・陝西LNGリザーブ& ロジスティクス | 西安LNG緊急備蓄プロ ジェクト(液化80万t/y) | プロセス設計 パッケージ、 FEED、L NGトレーン 向け主要機器 供給等 | — | 仏テクニップエナ ジーズ |
| 中国 (深圳) | 中・深圳ガス | LNG貯蔵・ピークシェー ピングII拡張プロジェクト (LNG貯蔵→200万t/y) | EPC | — | 独TGEガス・エン 지니어リング~中 CIMICエプ リック・エンジニア リング・テクノロ ジー~チャイナコ ンストラクション・ セカンド・エンジ ニアリング・ビュ ロー |
| 中国 (広東省惠州市) | シェル南海(シェルグルー プ)~中国海洋石油(CNO OC) | 石油化学コンプレックス第 3期増設(エチレン160万 t/y等) | SM/PO、E O/EG、LA O等のライセ ンス(技術)供 与契約 | — | シェル・カタリスツ &テクノロジーズ (英シェルグルー プ) |
| 中国 (寧波) | 中シノベック寧波鎮海精錬 化学(中国石油化工集団(シ ノベック)子会社) | PP製造プラント建設(P P50万t/y) | PP製造技術 供与 | — | 米ルーマステクノ ロジー |
| 中国 (浙江省寧波) | 中・寧波巨科化工科技 | 1,3-プロパンジオール(P DO)製造プラント、ポリト リメチレンテレフタレート (P T T)製造プラントの建 設(PDO7.2万t/y、P T T 15万t/y) | 詳細設計サー ビス、PDO 技術ライセ ンス、基本設計 パッケージ、 機器の供給 | — | 仏テクニップエナ ジーズ |
| | | | PDOプラント の触媒サブ ライヤー | — | シェル・カタリスツ &テクノロジーズ |
| 韓国 (大山) | 韓ハンワ・インパクト | 水素製造向け商業用アンモ ニア分解装置建設(水素 200t/d超) | アンモニア分 解装置の技術 ライセンス供 与、エンジ ニアリング設計 契約 | — | 米KBR |
| 韓国 (蔚山市) | 韓国石油公社(KNOC) | CCSプラント建設(CO2 回収・貯留120万t/y) | プレFEED | — | 韓・現代建設 |
| 韓国 (蔚山) | 韓ISU化学 | アンモニア分解プロジェク ト(水素製造100t/d) | 水素製造技術 供与(エンジ ニアリング、 触媒提供含 む) | — | 米KBR |
| ベトナム (クアンニン省ク アンイェン) | ベトナム・イエンフン石油 化学 | YHP冷蔵LPGターミナ ル建設 | EPC | 受注額 43億バーツ (約1.24億ド ル) | TTCLベトナム (タイ・TTCLグ ループ) |

5. 最近の日本企業受注・応札状況(2023年末現在)

※企業の順番は五十音順、掲載情報はその時点の情報を掲載

◆ I H I

| 国名 | プロジェクト名/総額(受注額)等 | 進捗状況等 |
|----------|--|--|
| フィリピン | メトロマニラ立体交差建設第6フェーズ/環状道路で立体交差建設による交通渋滞緩和/総事業費約95億円 | 2024/1フィリピン公共事業道路省が再入札に向け、設計規模縮小等を協議中、I H I インフラシステム(: I H I グループ)が応札検討。2019/6 J F E エンジニアリング~東洋建設のみ応札。円借款案件(日本タイド) |
| マレーシア | ペトロナスグループのマレーシア国内拠点向け2MW級アンモニア専焼ガスタービン導入 | 2023/12現地ジェンタリ・ハイドロジェン(ペトロナス子会社)が、I H I が開発中のアンモニア専焼ガスタービンの導入を検討中。2026年度上期の商用運転開始を目指す |
| マレーシア | NURジェネレーションのオーロラプロジェクト(ガス火力発電プラント建設)/ガスタービン・コンバインドサイクル(G T C C)130MW | 2023/7シンガポール・ジュロンエンジニアリング(J E L : I H I グループ)~現地イクウェイタエンジニアリング(E E S B : J E L 傘下企業)がE P Cを受注。独シーメンスエナジーがガスタービンを供給。第1期がシンプルサイクルで2024/3Q、第2期がG T C Cで2025/3Qに稼働開始予定 |
| シンガポール | セムコープコージェンのマルチューティリティーセンター(水素対応ガス火力発電所)建設/G T C C 600MW/総投資額9億シンガポールドル | 2023/5三菱重工業~現地J E L がE P Cを受注。J E L が現地工事を担当。三菱重工業はL T S Aも受注。2026/上のフル稼働入り予定 |
| シンガポール | メランティパワーの天然ガス・水素混焼対応ガス火力発電所建設/シンプルサイクル680MW | 2023/5三菱重工業~現地J E L がE P Cを受注。J E L が現地工事を担当。2025/央の運転開始を予定 |
| インド | ムンバイ・アーメダバード間高速鉄道整備(M A S H R)向け特殊橋梁整備/鋼下路トラス橋28橋:総計約4.5km/総額約200億円 | 2023/10 I H I インフラシステムが初の鋼製橋梁・鉄鋼7t以上を現地に納入。2021/2 I H I インフラシステム~印ラーセン・アンド・タープロ(L & T)がインド国家高速鉄道公社から受注、現地で製造 |
| バングラデシュ | マタバリ港向けアクセス道路新設/第2工区:約9km、第3工区:約7km | 2023/4鹿島~I H I インフラシステムが受注有力。円借款供与予定 |
| U A E | 太陽光発電の電気分解による水素由来のグリーンアンモニア製造・販売(ドバイ首長国、その他首長国等で検討)/商用アンモニア20万t/y | 2023/12 I H I と現地ドバイ国有石油・ガス公社(E N O C)がF S中、2024/3完了予定。パイロットプラントを2025年に完成し、2028年頃に商用プラントを完工予定 |
| クウェート | ドーハウエスト火力発電所・海水淡水化プラントの蒸気タービン・発電機近代化工事/既設発電2,400MW | 工事入札に向けて、I H I、三菱重工業、中・上海電気等が応札→2023/12評価中 |
| ガーナ | 東部回廊ボルタ川橋梁建設(斜張橋新設)/橋長約520m、最大支間長約270km等/総事業費約150億円 | 2023/5事実上のデフォルトで、コントラクター選定が中断。2021/12 I H I インフラシステム、J F E エンジニアリングが応札。円借款案件(日本タイド) |
| コンゴ民主共和国 | マタディ橋道路整備向けケーブル送気乾燥システム追加工事、橋面舗装補修、アプローチ舗装修復他/既存吊橋全長722m、中央径間長520m | 2023/8詳細設計対象の無償G/A。2024/7までに詳細設計完了予定。I H I インフラシステムが保全で長年の実績あり、整備計画も前向き検討 |
| 豪州 | ハイドロジェンノースクイーンズランド(H y N Q)プロジェクト(水電解装置・水素製造プラント、アンモニア合成プラントの建設)/水電解装置:小規模→250MW規模 | 2024/1事業検討中。2022/12豪エナジー・エステート、出光リニューアブル・デベロップメント・オーストラリア、豪C Sエナジーが検討開始→2023/9 I H I エンジニアリング・オーストラリア(I H I グループ)が参画を発表。2023/9プレF E E Dを完了→F E E Dを開始へ。2020年代後半の稼働開始を目指す |
| 豪州 | グリーンアンモニアプロジェクト(水電解装置・水素製造プラント、アンモニア合成プラントの建設:タスマニア州)/水電解装置:小規模→250MW規模 | 2023/12事業化を検討中。2022/5F Sを完了。I H I が主要機器供給に意欲。2021/5 I H I、丸紅、ウッドサイドが事業性を検討・調査の覚書締結 |
| ニュージーランド | ウッドサイドのグリーンアンモニア事業(水素製造プラント、アンモニア合成プラントの建設)/アンモニア50万t/y | 2022/7 I H I が検討・調査業務(プレF E E Dスタディー)を受注→2023/7完了→2023/12事業化を検討中。I H I はF E E Dの受注も狙う |

2. 総合重機の2022年度決算

総合重機 5社の2022年度決算、5社が売上・受注増加

－ I H I の資源・エネルギー・環境が堅調／日造が海外ごみ発電好調－

総合重機 5社 (I H I、川崎重工業、住友重機械工業、日立造船、三菱重工業) の2022年度 (2023年3月期) / 住友重機械工業のみ2022年12月期) 連結決算は、5社全ての売上と受注が増加し、住友

■総合重機 5社の連結業績推移

(金額単位：億円)

| 社名 (適用会計基準) | 決算期 | *売上高 | **営業利益 | ***営業 利益率 | ****経常 利益 | *****親会社 株主に帰属する 当期純利益 | 受注高 | 受注残高 |
|------------------------------|------------------------------------|--------|--------|--------------|--------------|------------------------------|--------|--------|
| I H I (I F R S) | 2021年度(2022年3月期)実績 | 11,729 | 814 | 6.9% | 876 | 660 | 12,612 | 12,650 |
| | 2022年度(2023年3月期)実績 | 13,529 | 819 | 6.1% | 648 | 445 | 13,661 | 12,994 |
| | 2023年度(2024年3月期)予想 | 13,000 | ▲800 | — | ▲800 | ▲900 | 13,500 | — |
| 川崎重工業 (I F R S) | 2021年度(2022年3月期)実績 | 15,008 | 303 | 2.0% | 276 | 126 | 16,021 | 16,313 |
| | 2022年度(2023年3月期)実績 | 17,256 | 823 | 4.8% | 732 | 530 | 20,374 | 19,959 |
| | 2023年度(2024年3月期)予想 | 18,400 | 400 | 2.2% | 210 | 120 | 18,400 | — |
| 住友重機械工業 (日本基準: 12月期決算) | *****2021年度(2021年12月期)実績(参考) | 7,798 | 506 | 6.5% | 493 | 324 | 8,952 | 6,504 |
| | *****2022年度(2022年12月期)実績(9カ月分) | 8,541 | 448 | 5.2% | 433 | 58 | 9,847 | 8,057 |
| | *****2022年度(2022年12月期)実績(参考:12カ月分) | 10,183 | 600 | 5.9% | 588 | 163 | 11,648 | 8,293 |
| | *****2023年度(2023年12月期)予想 | 10,750 | 640 | 6.0% | 600 | 380 | 10,550 | — |
| 日立造船 (日本基準) | 2021年度(2022年3月期)実績 | 4,417 | 155 | 3.5% | 117 | 78 | 6,779 | 10,180 |
| | 2022年度(2023年3月期)実績 | 4,926 | 200 | 4.1% | 178 | 155 | 7,375 | 13,177 |
| | 2023年度(2024年3月期)予想 | 5,400 | 230 | 4.3% | 190 | 130 | 6,200 | — |
| 三菱重工業 (I F R S) | 2021年度(2022年3月期)実績 | 38,602 | 1,602 | 4.2% | 1,736 | 1,135 | 40,677 | 54,885 |
| | 2022年度(2023年3月期)実績 | 42,027 | 1,933 | 4.6% | 1,911 | 1,304 | 45,013 | 60,618 |
| | 2023年度(2024年3月期)予想 | 43,000 | 3,000 | 7.0% | 2,900 | 1,900 | 56,000 | — |

(注1)五十音順

(注2)住友重機械工業は2022年から決算期を3月期から12月期に変更、これに伴い*****2021年12月期=2021年度(2021年4-12月分+海外事業2021年1-12月分)は調整値、*****2022年12月期=2022年度は国内分2022年4-12月分+海外分2022年4-12月分、*****2023年12月期通期予想(2023年1-12月分)、受注残高はその他部門を除いた4分野の単純合算値を掲載
(注3)I H I は*売上収益、***税引前当期利益、*****親会社の所有者に帰属する当期利益/川崎重工業は*売上収益、**事業利益、***事業利益率、****税引前当期利益、*****親会社の所有者に帰属する当期利益(2022年度からI F R Sを適用、2021年度は調整値)、川崎重工業の受注残高にはモーター&サイクル、その他は含まれない/三菱重工業は*売上収益、**事業利益、***事業利益率、****税引前当期利益、*****親会社の所有者に帰属する当期利益
(注4)2023年度は中間期時点の予想値(住友重機械工業のみ第3四半期時点の予想値)

2. 電力分野

【中国】

| プロジェクト名 (規模・能力・サイト) | 事業主体 [発注者等] | 総投資額 (建設費) | 備考 |
|---|--|---------------|---|
| 舟山コンバインドサイクル発電プラント建設 (能) G T C C 1, 700MW等 (所) 浙江省舟山 | 中 S D I C 済能舟山ガス発電会社(中・国家開発投資会社(S D I C)傘下企業) | — | 2023/10米 G E ~ 中ハルビン電気が G T C C 発電プラントプロジェクトを受注。2025/末までに1基目の商業運転開始予定 |
| 陽江ハイテクゾーン天然ガス焼き CHP プロジェクト(CHPプラント建設) (能) ガス火力発電240MW等 (所) 広東省陽江市 | イーストアジアパワー・陽江(インドネシア・ロイヤルゴールデンイーグル(R G E)傘下企業) | — | 2023/8米 G E がガスタービン供給とサービス契約(15年間)を受注。1基目が2024/12、2基目が2025/1Qに順次商業運転開始を予定。R G E が陽江に建設する L N G 受入基地からの L N G を燃料に使用 |
| 陽江陽西天然ガスコジェネレーションプロジェクト(CHPプラント建設) (能) ガス火力発電240MW等 (所) 広東省陽江市 | 中・北京能源国際(B J E I) | — | 2023/8米 G E がガスタービンを受注。2025年までの稼働開始予定 |

【韓国】

| | | | |
|---|---|-----------------------|--|
| 蔚山グリーン1複合発電設備(蔚山火力発電所の G T C C 発電設備)建設 (能) G T C C 990MW (所) 蔚山広域市 | 韓国東西発電会社(K E W E S P O) | — | 2023/6韓・斗山エナビリティが G T C C 発電設備の受注有力→2024年にも決着へ。2023/3韓国電力技術(K E P C O E & C)が設計業務を受注。2027年の完工予定。蔚山火力発電所では、2023/6韓国東西発電会社が斗山エナビリティ等と水素焼き50%混焼ガスタービン開発プロジェクトに参画→天然ガス・水素混焼を視野 |
| 盆唐複合火力発電所の G T C C 発電設備建設 (能) G T C C 1, 014MW (所) 京畿道 | 韓国南東発電会社(K O E N) | — | 2023/6韓・斗山エナビリティが G T C C 発電設備受注有力。韓国電力技術(K E P C O E & C)が初期作業に協力か |
| 済州発電本部(済州複合発電所)の天然ガス・水素混焼 G T C C 発電設備建設 (能) 新 G T C C 150MW (所) 済州特別自治道済州市 | 韓国中部発電会社(K O M I P O) | 投資額 4, 090億 ウォン | 2023/9韓国産業通商資源部から優先事業に選定され計画を発表。2025/10着工→2027/6ガスタービン単独稼働→2027/12全面稼働を予定。韓・斗山エナビリティが開発中の天然ガス・水素混焼ガスタービンを提案する可能性もあり |
| 保寧新複合火力発電所建設 (能) G T C C 569MW (所) 忠清南道保寧 | 韓国中部発電会社(K O M I P O) | — | 2023/6韓・斗山エナビリティが1号機向けに G T C C 発電設備(自社製380MW級ガスタービン等)を受注。発電設備供給と技術支援等(契約額:2, 816億ウォン)。2026/6の完工予定 |
| バイオマス発電所建設 (能) 発電25MW・蒸気発生量225t/h (所) 全羅南道麗水市 | 韓 T W バイオマスエナジー(韓 L G 化学、韓 G S E P S が出資) | 投資額 3, 200億 ウォン | 2023/12フィンランド・スミトモ S H I F W (S F W:住友重機械工業グループ)が韓 D L E & C 経由で C F B を受注。2023/10 D L E & C が E P C を受注(受注額:2, 500億ウォン)を受注。2022/2 L G 化学、G S E P S が H O A 締結→2022/12正式契約。2026/11までの稼働開始を予定。L G 化学・麗水コンプレックス内に建設、同コンプレックス内の工場向けに電力や蒸気等を供給 |
| 安養熱電併給所近代化(ユニット C H P 2-2 増設) (能) ボイラ温水製造能力210MW (所) 京畿道安養 | 韓 G S パワー | — | 2023/7独スタンダードケッセル・バウムガルテ(S B G: J F E エンジニアリング子会社)が技術協力している韓 T S B T D がボイラ設備を受注、2024/末までの完工予定 |
| 新蔚珍(新ハヌル)原子力発電所3号機・4号機増設 (能) P W R 1, 400MW→3, 600MW (所) 慶尚北道 | K H N P | — | 2023/8事業計画。2023/4韓・斗山エナビリティが原子炉や蒸気発生器、タービン発電機等の製造・供給契約を受注(受注額:2.9兆ウォン)。2032~2033年の完成予定 |